

令和元年度鶴岡市立図書館協議会 会議概要

○日 時 令和元年 10 月 10 日（木）午後 2 時～

○会 場 鶴岡市立図書館本館 講座室

○出席委員 樋渡美智子委員 金子 洋子委員 笹山 一夫委員
井上 裕子委員 三浦 洋介委員 安藤 幸子委員
鈴木 邦委員 小野寺せつ委員 鈴木 和子委員

○欠席委員 中村ちか子委員 伊藤 博委員 大久保紀子委員
佐藤 みつ委員

○事務局 館 長：松浦幸子 主 査：今野 章
主 査：船岡里佳 図書館専門員：佐藤典子

○公開・非公開の別 公開

○次 第

委嘱状交付

1. 開 会 今野主査
2. あいさつ 松浦館長
3. 図書館協議会委員並びに事務局紹介
4. 正・副委員長の選出
委員長に樋渡美智子委員を選出
副委員長に金子洋子委員を選出
5. 報告・協議
 - (1) 平成 30 年度図書館事業報告（要覧 P.8～19）
・主な事業内容や予算執行状況等を報告 松浦館長
 - (2) 令和元年度図書館重点施策と主要事業について（要覧 P20～23）.
・新規事業も含め、事業概要を説明 松浦館長
 - (3) 第 2 次鶴岡市子ども読書活動推進計画策定について
・第 2 次計画策定の進捗状況等を説明 船岡主査
 - (4) その他
4. 閉 会 今野主査

- 委員：平成30年度の実績のレファレンス件数が随分減っているが、何か要因はあるか。
- 事務局：10年ほど前は、家に百科事典や植物事典が必ずあるわけではなかったもので、例えば新しい言葉が出てきてどういう意味か調べたいと来館されたり、野の花を持ってきて何という花かと聞かれたりなど、いろいろな質問があり、その都度レファレンス件数に数えていた。今は、多くの人が辞書と百科事典にかわるスマートフォンなどを持っている時代で簡単に調べることができるようになり、ちょっとした疑問では図書館には頼らなくなっていると感じている。
- 委員：ライター講座が近年開催されているが、どんな方たちが参加されているか。ライターを目指す方たちまで参加されているのかお尋ねしたい。
- 事務局：参加人数は、昨年が80人弱で、今年は約60人で、高校生や若い人も参加いただいている。参加者のうち、自分の書いた作品を提出する方が昨年と今年も7人ずつで、約1割の方から出品いただいた。中には、この講座に初めて自分で書いた小説を出品し、講座の題材に取り上げられ、その後、いろんなコンクールに応募したところ、二次選考まで通ったという方もいた。そのような方々を輩出できればと思っている。
- 委員：毎年鶴岡市に私立幼稚園から子育てに関する要望をしており、さまざまなことが盛り込まれるのだが、今年は図書館のことが含まれていた。よりよい子育てができる環境を目指す要望のなかに、読書に関する要望が出たことが嬉しかったのであるが、その内容は、図書の貸出記録を交付できないかというものであったがどうか。
- 事務局：それには、現在の図書館システムの変更する時期でないと難しく、経費も相当かかることが想定される。以前、他市に視察に行った際にお聞きした話では、貸出記録が銀行の通帳のようなものに印字されるもので子どものみに交付していたが、大人からも希望されていて対応に苦慮していたり、2冊目以降の交付は有料にしようかなど、予算的なことで悩んでいたもので、本市においても導入はかなり難しい状況である。
- 委員：小学校では、貸出のときに記録するカードを1年生のときから保管しておき、それを卒業のときに、リングでまとめたものをプレゼントしていたが、それも記念になって喜ばれていた。
- 委員：リードンとヨンデールのカードを新一年生に交付した事業はとても良かったと思う。櫛引分館にはくまくんの立体のキャラクターがあり、移動図書館のバスにはイラストも描いてあるが、本館にはどうしてくまくんがいないのかと疑問に思っていた。
- 図書館の利用者を増やすために考えたとき、図書館の場所に魅力的なものがあれば多くの利用者が来るかもしれないと思い、リードンとヨンデールのキャラク

ターをつちだ先生に依頼して作っていただけないかと思った。既存の施設でも楽しいことができるのではないか。

事務局：私たちもくまくんの立体のキャラクターを制作したいという考えがあり、つちだよしはる先生のところに相談したのだが、その回答は、特殊なところから制作していただいている、その制作したところが今はなくなっていて、残念ながら、あれはもう制作できないというお話だった。

今回は、新一年生にキャラクターのカードを作成することができたが、せっかく作っていただいたキャラクターであり、今後も愛され親しまれていくように、さまざまな方法で活用していきたいと考えている。

委員：私は居住する公民館で図書館づくりをしてきているが、自治会の予算には限りがあり、本館や分館からの団体貸出に力を入れていて、授産施設や保育園にまとまった本を持って行って貸出をしている。団体貸出用に本を選んで貸出を行うと、地域の方々が借りてくれて、励まされていると感じる。

おはなし会も例年どおり開催しており、協力しているのが温海絵本読み聞かせ隊ポッケであるが、温海地区だけでなく鶴岡地区の施設からも呼んでいただいて、おはなし会を開催している。園児たちからも喜ばれていて、それが私たちの力になっており継続できている。

毎月、回覧板に、おはなし会の様子や本の紹介などを掲載させていただいているので、声をたくさんかけていただく。図書館本館、各分館と連携して、少しでも地域の身近なところで一人でも一冊でも多く提供できるようにしていきたいと思っているので、これからもご協力をお願いしたい。

委員：私はブックオフに通っていて、通い始めて10年弱ぐらいになるが、並んでいる本がどんどん変わってきている。10年前は、藤沢周平全集や宮本百合子全集などがあつたが皆無になった。明らかに社会の読書傾向の変化がある。

また、活字のサイズも前よりは大きくなっているが、以前の小さい活字の文庫本は全く売れない。小さい字を読める人はインターネットに移行していて、ブックオフは中年以上の利用するものになったと感じる。漫画本や雑誌は、売り場のスペースが増えていて、小説の売り場のスペースはどんどん小さくなっている。

昔は市内にも書店がたくさんあつたが、今は数少なくなってきており、鶴岡市民は以前に比べて本を買わなくなったと思う。

日本全国の公立図書館の本の一人当たりの貸出冊数と鶴岡市立図書館の貸出冊数は、およそ全国と同じような比率になっている。公共図書館の床面積は、全国的に増えている傾向があるが、専任職員数は微減している。蔵書数は微増しており、新しい図書の受け入れ冊数は微減しているので、図書の廃棄率を少なくして、全体の蔵書数を保っているようだ。

鶴岡市立図書館にある文庫本は、文字が小さく高齢者は借りていく気力はない。新書版も文字が小さいと読まないという人もいる。図書館にそろえる本について、子どもたちが読む本と高齢者が読める本のバランスを考えなければ、高齢者の肉

体的な読書離れが進み、高齢者の貸出冊数の増加につながらないのでないか。

これは、鶴岡市の図書館だけの話ではないと思うが、読書は好きだけれども肉体的に読めない人をつなぎとめるために、蔵書する図書が変わっていかなければ、高齢者は急速に離れていくのでないかと思う。

委員：朗読している作品を借りて聞くととても良かった。芥川賞などを取った作品で自分が読んでいなかった作品を朗読で聞いたら意外に良くて聴き込んだ。そういうのを増やしていただければいいのでないかと思う。長い小説の本だとなかなか手が出ないが、そういう録音図書であれば簡単に聞くことができる。

委員：NHK の元アナウンサーである中里先生の朗読を聞くと語りが上手で、基礎を踏んできた方は全く違うと感じる。図書館でも中里先生のすばらしい語りの企画をしたらいいと思う。

委員：資料を見ると、本館でも分館でも貸出冊数やウェブ予約も多くなっており、職員の努力を感じる。図書館は地域の方に読書環境を提供する役目があり、移動図書館の利用が気になっていたが、増加しているので安心した。

私は、前に小学校に勤めていたので、事業に関しては、小学生のための図書館講座や中学生への読み聞かせ、読書感想文コンクールなど、小中学生を対象にした事業をたくさん盛り込んでいることはとても心強くてうれしいことだ。

小学生のための図書館講座は、昨年度の昆虫のテーマも、今年度の古典文学のテーマもとても興味深い。私も昔、島崎藤村の初恋のうたの授業をしたことがあり、同級会をすると教え子からいまだに覚えていることを話してくれて、教えてよかったと思った。小学生なりに解釈してもらえれば結構なので、ぜひともこのような事業を進めていただきたいと思います。こうした講座から読書へのきっかけにつながっていけばと思う。

委員長：たくさんの意見、感想、課題等をいただきました。ありがとうございました。事務局に進行をお渡しします。

事務局：本日はどうもありがとうございました。これをもちまして令和元年度の鶴岡市立図書館協議会を終了いたします。長時間ありがとうございました。